



◎A：教科の内容 B：読み解く力

### 【国語編】

#### [教科]

正答率は、全体的には都の平均とほぼ同じである。「話す・聞く」は5.1ポイント上回っているが、「言語」は4.3ポイント下回っている。

#### <授業改善のポイント>

接続語の学習では、同じ役割をする接続語を整理して指導するとともに、前後の文章や段落の関係から適切な接続語を選ぶ指導の充実を図る。指示語については、指し示すものが離れた位置にあっても的確に捉えることができる指導の充実を図る。

文脈に沿って接続語を適切に用いて話したり書いたりするよう、他教科等の指導の中でも、機会を捉えて短い文章で繰り返し確認していくことが重要である。

#### [読み解く力]

正答率は、都32.9% 学年35.8%と都の平均と比べて、2.9ポイント上回っている。その中では、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」が、都の平均よりも0.2ポイント下回っている。

#### <授業改善のポイント>

ある目的や意図をもって複数の資料を読むことで、筆者の思いや考えをより深く理解することができるようになる。複数の資料を読む中で、内容がどのように関連付けられるかを考えたり、ある目的のためにまとめ直したりする中で、筆者の思いをより深く理解するとともに、自分の目的にあった表現について考えることができるように指導することが大切である。

### 【社会編】

#### [教科]

正答率は、都の60.1%に対して学年63.1%と、3ポイント上回っている。

観点別の調査結果をみると、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点すべてで上回っている。特に「技能」は、都の67.7%に対して学年は72.9%と、5.2ポイント上回っている。また、「知識・理解」は、都の44.3%に対して学年47.5%と、3.2ポイント上回っている。一方、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は、ほぼ同じとなっている。

この結果から、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」の力を伸ばしていくことが、必要だと考えられる。

#### <授業改善のポイント>

導入の工夫をしたり、実物を見せたりやゲストティーチャーの話を聞く場を設けたりして、興味・関心を高める手立てを講じる。

調べた内容を比較したり関係図に整理して表したりするなど、社会的事象相互の関連、社会的事象の

意味や特色について考える活動を設定する。

#### [読み解く力]

正答率は、都の47.4%に対して 学年44.3%と、3.1ポイント下回っている。

この結果は、教科の内容の都との差に比べれば小さいが、[読み解く力]が不足していることを示している。

観点別でも、「必要な情報を正確に取り出す力」「比較・関連付けて読み取る力」や「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」は、いずれも都の結果を下回っている。特に、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」は、4.1ポイント下回っており、改善が求められる。

#### <授業改善のポイント>

実物、写真や統計資料などを詳しく観察して問題を見出し、話し合いなどを通して解釈、推論して解決する機会を増やしていく。

調べた結果の共通点や因果関係などを表や関連図に整理し、複数の情報を、比較・関連付け・総合して考えさせる場を意図的に設定していく。

### 【算数編】

#### [教科]

各内容において、都の平均をやや上回っている。

観点別でみていくと、「関心・意欲・態度」と「思考・判断・表現」では、都より3ポイント前後上回っているが、「技能」と「知識・理解」では都より1ポイント前後下回っている。

#### <授業改善のポイント>

問題解決的な学習においては、問題場面を自分の力で図示したり、絵をかくことなどをして、答えの予想をしたり、見積もりをしてから問題解決にあたらせる必要性を従前より指摘してきたが、今回も結果を見るとあまり改善されていないことがわかる。結果だけを追わずに、問題解決能力の育成や方法を効果的に取り入れて、検証し、よりよい授業方法を推進していくことが大切である。

また、こういう授業方法を多くの教員が理解して、学年全体の学力向上にあたることが大切である。

#### [読み解く力]

各内容において、都の平均をやや下回っている。

問題を読み解く力をつけるには、多様な考え方の中から、問題に立ち戻って、問題の条件にあう考え方を検討していく授業を多く取り入れたい。

### 【理科編】

AとBの合計では、都67.3% 学年68.0%となっており、都の平均と比べて、0.7ポイント上回っている。

#### [A 教科]

正答率は、都70.4% 学年71.3% と都の平均と比べて、0.90ポイント上回っている。その中でも、「思考・判断・表現」の問題においては、特に都の平均を上回る正答率を示している。しかし、「観察・実験の技能」の問題では、正答率が低くなっている

#### 《授業の改善ポイント》

授業改善のポイントとしては、観察、実験の結果等を、根拠や理由を示しながら自分の言葉で説明させる指導や、結果を基に関連付けて考えさせる指導の充実が挙げられる。

#### [B 読み解く力]

正答率は、都57.1% 学年57.2%と都の平均と比べて、0.1ポイント上回っている。その中で「解決する力」の問題においては、特に都の平均を上回る正答率を示している。

しかし、「取り出す力」と「読み取る力」の問題で、正答率が低い結果となった。

#### 《授業の改善ポイント》

複数の種類の昆虫等を比較して観察し、共通点、差異点があることを捉えさせる指導の充実が挙げられる。